

高等学校におけるバスケットボール授業に関する一考察

学校体育マネジメントコース

5008A316-7 須黒祥子

研究指導教員： 友添秀則教授

研究の目的

本研究では高校段階のバスケットボールの授業と教材の関係に着目して、現状のバスケットボール授業の問題点とバスケットボール授業の有効性と可能性について考察する。

学習者が体育授業を通じてバスケットボールを学習したとき、現状の授業で問題として浮かび上がることが何かを明らかにすることを第1の目的としている。技術の向上がみられなかったり、バスケットボールの授業を通して十分な達成感が満たされてきていなかったりしているのではないかということについて危惧している。

第2の目的としてバスケットボールという教材の中で何を教えていくのかという学習内容の特定がされてきていないということについての問題を示すことにある。以上二つの目的から明らかになったことから、本研究の最終目的としてバスケットボールが持っている学習の可能性と有効性について何があるのかを提案していくこととする。

研究の方法

本研究は先行研究を分析することによる文献研究である。また、バスケットボールを指導している担当教諭へのインタビュー調査を実施する。

第1章

バスケットボールの戦後における学習指導要領での取り扱いと、現在高校で行なわれているバスケットボールの授業に着目し、その実態を把握した。

バスケットボールは、集団的スポーツに位置づけられ、体育を通じて社会的態度の育成に期待されるところが大きかった。さらに、学習内容の最終的な型としてゲームを行わせるということが示されてきた。集団的スポーツの指導過程は、個人技能→集団技能→ゲームというもので、現在、実際に高校で行なわれている授業

についても同様である。しかし、この形態では限界にきていることが浮き彫りになってきた。

第2章

第1章の考察をもとに、授業の現状から、バスケットボールの授業を通じて生徒たちの技能向上がみられてきていない点、バスケットボールの内在的価値に触れられていないという点に着目して、これらの問題点について分析した。

これまでのバスケットボールの授業では、生徒たちにとっても、うまくなった、できるようになったという実感がわき難かったし、そこに充足感や喜びが生まれにくかった。

教師には、パスやシュートなどのボールを操作する技術の指導と、ゲームに結びつけるための集団技術の指導だけをおこなってきたという背景がある。しかし、構造特性や戦術行動などに着目してバスケットボールを分析していくと、ボールをもたないプレイヤーの動きについての指導が重要であることがわかった。

また、生徒たちが、バスケットボールの授業で充足感や喜びなどを感じるためには、技術だけを学習すればよいというものではない。しかし、これまでの授業では、人間関係能力の育成については触れられてきておらず、競技としてのバスケットボールをそのまま教材として扱ってただけであり、学習内容が明確ではなかったということがあきらかになった。

第3章

バスケットボールの授業において、教えていくべき内容の特定と、バスケットボールを通して教える人間像とはどんなものであるのか考察した。

これまでのバスケットボールの授業で教えてきたことは、ボール操作の技術ばかりであり、それは、生徒たちの技能向上を図ることができるものではなかった。

ボールをもたない動きは、攻防入り乱れ系球技の共

通した運動課題であるので、それぞれのゲームで共通した学習内容になり得る。

バスケットボールの授業では、ボールをもたない動きを絡めながら教材化していく視点が大切である。さらに、生徒たちの発達段階に応じた指導をしていかなければならないと考える。

また、バスケットボールは集団との関わりが大切な種目である。集団での学びの中で、よりよい学習集団を築きあげていくことができる可能性を持っている。

結章

第1章から第3章までに行なった考察から、結論をまとめた。

現在の高校におけるバスケットボール授業においては、生徒たちの技能向上がみられず、そこに社会的態

度の育成や情意的学習に結びつくものがなかった。それは、問題の所在が学習内容の不在、バスケットボールを通して教えていくべき人間像がないことにあることがわかってきた。

つまり、バスケットボールを通して何を教え、学ばせるのかという問いに対する答えがなかったということである。

バスケットボールには教材としての有効的な価値がある。競技としてではなく、教材としての捉えをすることで、生徒たちに運動がうまくなることや、できることを実感させ、喜びを与えることになるであろう。さらに、そこから自己有能感、自信を持つことにつながり、互いの良さを認め合い、課題を克服するために共に力を出し合う生徒の姿をつくりだすことができるといえる。